

香川県知事

真鍋武紀 様

内海ダム再開発事業を直ちに凍結して、 事業の抜本的見直しを求めます。

貴職は昨年以前原国土交通大臣から「内海ダム再開発事業見直し」を要請されたにも関わらずそれを拒否し、同大臣が「本体工事着工済みの事業は見直し対象事業から除外する」としていることを最大限利用して、「本体工事の駆け込み契約」を行いました。その結果、国は、平成 22 年度の同事業への補助金を香川県の申請額に対して満額交付することを決定しました。

一方、私たちはこの事業はまったく不要な違法事業であるとして、事業認定取り消しを求める裁判と提訴しています。あわせて、同事業への県の支出差し止めを求める住民訴訟を提訴しています。

一方、事業認定処分を受けた香川県は収用裁決申請を収用委員会に求めました。収用委員会の審議は 5 月に結審し、事業認定取り消し訴訟のさなか、この 7 月にも収用裁決処分が下されようとしています。(7 月 20 日に、明渡し期日を 11 月 22 日とする収用裁決がされた。)

そもそもこの事業が建設事業として採択されたのは平成 14 年度であり、「何が何でもダム優先」の河川行政時代のことです。現政権になった今日、河川行政は『ダム依存』＝『コンクリート依存』から 『極力ダムに依存しない』＝『人間最優先』に脱皮を図っています。この方向転換は広く国民から支持されているものであり、貴職もそのお一人と思います。

建設事業に採択される当初から私たちは、その目的としてあげられている治水・利水の必要性はまったくの虚偽であることを明らかにしてきました。そして、不要なダム建設に

よって寒霞溪の景観が壊されてしまうこと、異常なまでにダム本体と接近した位置に生活している住民は同ダムの地質が脆弱であることからの堤体倒壊の恐怖に常にさいなまれること、税金の無駄遣いであること、などからこの事業の中止を求めてきました（後ろに添付した別紙をご覧ください）。

しかしながら香川県は私たちのこれらの要請に対して真摯な対応を拒否し、嘘に嘘を上塗りして、この事業を強権的に推進しています。

私たちは香川県に対して当事業の中止を求めています。

そもそもこの事業を建設採択した際にどれほどの審査がなされたのでしょうか。しっかりと調査・審査を行えば、採択時に作成された書類、特に当該事業の必要性に関する説明資料に虚偽が書かれていたことが分かったはずです。その後の県の対応が住民無視そのもので、説明責任をまったく果たしていないことは貴職が一番承知されていることです。

今からでも遅くはありません。いや、今でないと取り返しが付かなくなります。

私たちは、貴職が先頭に立って当事業の最高責任者として、当事業を一旦凍結して、私たちと共に根本から見直されることをお願いいたします。

また、現ダム上流部に野積みしてある掘削土すべてを危険防止の観点から直ちに撤去することを求めるよう京都大学名誉教授志岐正常氏より指導をいただきました。貴職が直ちに掘削残土を撤去することを強く要求します。

2010年7月18日

寒霞溪の自然を守る連合会

同会主催の「7.18新内海ダム計画大勉強会」参加者一同

連絡先

香川県小豆郡小豆島町神懸通甲 1689-2 寒霞溪の自然を守る連合会 山西克明

電話 0879-82-4634



修景盛土を実施した完成予想イメージ

香川県の「別当川総合開発事業 内海ダム再開発」平成22年完成イメージ（10年後）より引用

私たちはこの修景盛土に接したところに居住しています。
地質脆弱ゆえの堤体本体倒壊の恐れに慄く生活を強いられるのです。
寒霞渓を仰ぎ見ることもできなくなります。
それもまったく不要な新内海ダムによることなので、この事業を許すわけにはいきません。
ご高配たまわりますよう、心からお願いいたします。

巨大内海ダム建設中止を求める私たちの考え方

1、「今の堰堤が沈下、地震で危ないから造り替える」と県が始めた巨大ダム計画。

- ・ 「巨大な新内海ダム」は、もっと地震に弱く、決壊すれば多くの人命を失う恐れ。
- ・ 堆積地で地盤が軟弱。堰堤の高さは2倍になり、沈下が速くなる恐れがあります。
- ・ 早明浦ダムより長く、黒四ダムに比肩する長い堰堤が途中で小山をまたぐ、世界に例の無い変形ダムなので、堰堤各部の沈下速度の違いから決壊の恐れがあります。
- ・ 堰堤の真下に3本の断層があること、ダムの両端は花崗岩が風化したもろい山であることもダム決壊への恐れをつのらせます。
- ・ 別当川の新内海ダム下流域には、堰堤直下 200mから 2 km 下の内海湾までに人家約 1000 戸、3000 人が暮らしています。決壊した場合、逃げる暇がありません。
- ・ 景観修復のために、ダムのコンクリート壁下方に 15 万トンの盛り土と植栽の計画が出たが、盛り土は人家に 10~20mまで迫り、大雨で地滑りして人家が埋まる恐れが大きい。

2、小豆島では、水不足は解消され、将来的にも心配はない見込みです。

平成9年の吉田ダム完成で、島内ダム貯水量が2,5倍となって以来、取水、給水制限は一度もありません。香川県が渇水で早明浦ダムの水位0報道の時も、吉田ダムは200日分を超える貯水量がありました。

県、町の水需要予測は過大です。島の人口は減り続けているのが現状です。別当川流域は、約8割の家に井戸があり、田畑にも数多くの池(野井戸)があります。

大雨時に溜まった水は淀み、夏場は特にカビ臭がつかます。別当川流域は寒霞溪に源があり、各地区の簡易水道も寒霞溪に源を發するきれいな水です。この個別水源を守り利用する方がきれいな水が使え、災害時対策としても有効です。

3、巨大な新内海ダムは治水対策として有効ではありません。

巨大ダム計画のある別当川は S49、51年度の集中豪雨の際も死傷者はなく、多数の死者が出た島内の他の川に比し、被害は軽かったのです。

土石流の出た地域の被害は水系が異なるので、このダム計画では防げません。

下流域の台風時の浸水は巨大ダムではその大量放水と高潮で一層ひどくなります。

H16年の台風でひどい高潮被害を受けており、高潮や津波対策の方が急がれます。

4、国立公園寒霞溪の素晴らしい自然環境、景観を破壊します。

奇岩怪石の渓谷美を誇る寒霞溪は、明治時代に島の先覚者が私財を投じて、他国の買収から守った、ナショナルトラスト先駆けの地であります。

その麓、寒霞溪への道中に今のダムの2倍の高さ42m、長さが早明浦ダムより長い447mもの堰堤のコンクリート壁が立ちはだかるのです。

また、生態系としての環境保全の必要性が認識されるようになった現在、山、里、海の間の循環を破壊して、山頂付近だけの保全がはかれると考えるのは無理があります。



5、国民、県民の185億円もの血税をこの事業に使わせては申し訳ありません。

国がタダで造ってくれると言う人がありますが、県も町も応分の負担をしなければなりません。県民の税金で、大手ゼネコンを潤すだけです。

四国の水瓶、早明浦ダムより堰堤は長い、貯水量は300分の1と効率悪く、渇水時には水が溜まらないダムです(山頂からダムまでわずか2km。狭い谷川で湧水もなく、ダム底は礫で水が抜ける恐れがある)。

6、まだ新ダム本体工事は始まっていません。今ならまだ間に合います

寒霞溪への道路付け替え工事が、森林を破壊し、急峻な山肌を削り、盛り土をして進められ、環境を破壊し景観を損ね、川へ濁流が流れ込み、すでに地元民を危険にさらしています。

